

# すごろくで学ぶ認知症

## 自治体では西日本初、関西弁などユニークな内容に

市は、市民の認知症への理解を深めるために「認知症すごろく ひらかた版」を作成した。自治体での同様のすごろく作成は西日本初で、マス目の表現は関西弁のユニークな内容に。すごろくは認知症の進行に応じた症状とともに、「体操」や「脳トレ」などのマス目を配置し、体や頭を働かせて楽しみながら認知症を学び、認知症の人への声掛けの仕方や、利用できるサービスなどを紹介している。市の担当者は「認知症になっても安心して暮らせるまちづくりには、認知症への正しい知識と理解が重要。すごろくで楽しく学んでほしい」と期待を込める。

- ★「認知症すごろく ひらかた版」は、認知症の症状や接し方のポイントについて、正しい知識を習得し、症状に応じた枚方市の制度やサービスを学ぶことを目的に作成。ゆっくりとマスを進めると症状の進行を抑えられる構成になっており、「だれが一番ゆっくり進められるか」を競う。他人事として捉えてしまいたくなる認知症を、まずはこのすごろくを使って正しく理解してもらい、どういう病気なのか、具体的な症状は何か、どのように進行していくのか、その時々を受けられる支援や使える社会資源は何かといったことをグループで遊びながら学んでもらうことが狙い。



- ★すごろくは市ホームページからダウンロードが可能。また、市内 13 カ所の地域包括支援センターに配布しており、同センターへ問い合わせることで誰でも体験が可能。
- ★高齢者が集まる場で活用してもらうため、8月 25 日 (金) に校区福祉委員会の委員へ体験会を実施した。同委員会は小学校区ごとに設けられた住民主体の地域福祉活動組織。体験会に参加した委員からは、「頭や体を使わせるような難しいマスもあったが良い体操になった。地域でも使用したい」と好評だった。
- ★同様のすごろくは茨城県水戸市や愛知県長久手市などでも作成されており、認知症啓発に利用されている。

<お問い合わせ>

福祉事務所 健康福祉総合相談課

☎072-841-1401、FAX 072-841-5711